

令和5年度第1回神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 議事概要

■日時:令和6年3月27日(水)13:30～15:30

■場所:神戸県民センター西神戸庁舎4階会議室

■出席者:協議会委員11名(内代理出席1名)

■議事

- 1 表六甲河川における取組み実績と課題
- 2 計画改定の方針性、スケジュール

■配布資料

議事次第、出席者名簿、配席図

資料1 兵庫県における総合治水の取組み

資料2 国の流域治水の取組み

資料3 神戸(表六甲河川)地域における取組み実績

資料4 総合治水対策を進める上での課題と対応の方針性

資料5 計画改定の方針性、スケジュール

資料6 防災気象情報の改善に係る取組みについて

参考資料1 地域総合治水推進協議会 設置要綱及び公開要領

参考資料2 地域総合治水推進計画

参考資料3 フォローアップシート

参考資料4 総合治水条例の概要(パンフレット)

参考資料5 みんなでとりくもう!「総合治水」(パンフレット)

■意見交換

本田委員

- ・現在は整備目標を下水道整備は10年確率、河川整備は30年から50年程度で進めていると思うが、今後10年間で予算的なこともあり50年確率の計画策定をして整備を継続できるのか疑問。現行計画のままでもよいとかの総合判断はどう行うのか?整備目標水準を満たしていない箇所も多く、そこを優先的に整備するのがよいと思う。
- ・国による特定都市河川の推進で、開発を原則禁止とする「浸水被害防止区域の指定」があるが、表六甲河川エリア内に指定する箇所があるのか。レッドゾーン(土砂災害特別警戒区域)の指定が相当大変だったので、国とよく相談して進めるとよいと思う。

事務局

- ・今後計画を進める上で予算確保は大きな課題と捉えている。従来から河川・下水道各事業主体において、国に対し積極的に予算確保を働きかけており、今後も継続していく必要があると考えている。

- ・国は特定都市河川の指定を推進しているが、県・市は、否定はしないが慎重に進めるべきと考えている。表六甲河川エリアにおいて、今後 5 年以内に指定を検討している河川はない。

沖村会長

- ・県が整備計画を策定して取り組む事業を意思表示することが国に対するプロモーションとなる。
- ・国の取り組みと兵庫県独自の総合治水との調整は、委員の皆様のご意見も伺いながら進めていくことになると思う。

伊藤委員

- ・取り組み実績の表で、下水道対策の浜添地区が×（取り組み無し）と評価されているが、その理由が計画の見直しのためであるとの説明で安心した。
- ・（新湊川の左岸側）浜添地区から荻藻地区にかけて、過去から浸水被害が発生している。荻藻駅周辺から水が噴き出して、大雨と大潮の満潮が重なり水が引かなかったことを 2～3 回経験している。一方、（新湊川の右岸側）真陽南さくら公園側は阪神高速の工事も行われて、浸水被害が発生しないように改善されている。
- ・見直した計画の内容と事業期間を聞きたい。

関係機関（神戸市）

- ・浜添地区では、以前からポンプ場整備計画があったが、神戸駅周辺で発生した大きな浸水被害をうけ、こちらを優先的に整備する方針とした。
- ・R4 年度に策定した雨水浸水対策基本方針では、将来の気候変動を踏まえた浸水対策を行うため、整備基準を上げた内容に見直した。
- ・浜添地区で浸水シミュレーションを実施したところ、浸水が発生する、特に大潮時には被害が発生する可能性がある。三宮地区のような大規模なポンプ場を整備するには、浜添地区にはまとまった用地がないため、短期、中期、長期と段階的に目標を定めて整備を進める計画を検討している。

浪平委員

- ・昔の都賀川は長閑な川であったが、ひとたび氾濫すると木造の橋が流されるなど大きな被害がたびたび発生した。現在のような、自然豊かな川になったのは、関係者の皆様の苦勞が実ったからと実感している。
- ・都賀川の悲しい事故を契機に、増水を知らせる回転灯や電光掲示板を設置していただいたが、長閑な川が一変するという危険性をもっと子ども達に啓発していただきたい。
- ・更に、所々にある階段やスロープに危険であることがわかるようにチェーンの設置を検討してもらいたい。好奇心から濁流を見るためにそのような箇所近づかないように灘警察署や我々自治会、防災が連携して注意しないといけないが、行政もそういった箇所を見ていただきたい。

事務局

- ・事故の教訓として、毎年小学生を対象に川の安全啓発ポスターの図柄を募集している。低学年でも、川から上がる判断基準を「回転灯が点灯している」ではなく、「空が暗い」と認識して絵を描く子どもも多い。これは水位が急激に上昇する表六甲河川の特性を理解し、風化することなく受け継がれている表れと捉えている。チェーンのご指摘は、関係部署間で共有する。

濱田委員

- ・神戸新聞に 2 級河川で堤防の未改修などで津波対策が遅れているという記事が掲載されていた。神戸市内の県所管河川でこのような箇所があるのか確認したい。

事務局

- ・(地震による地盤沈下等を考慮した結果、)津波による越水が確認された神戸市内 2 級河川は、高橋川、天上川、石屋川、高羽川、妙法寺川、福田川の 6 河川であるが、平成 26 年策定の津波防災インフラ整備 5 箇年計画では、背後地の状況を踏まえると改修の必要はないという判断をしている。

■講演

神戸地方気象台からの情報提供

濱田委員

- ・線状降水帯が発生しやすい時期や地域、気温、風向きなどの傾向はあるのか？

神戸地方気象台

- ・線状降水帯の発生しやすい地域や気温、風向きというものは特にはないが、暖かく湿った空気が入る時期は発生しやすいと思われる。梅雨や秋雨前線の時期などは大雨になりやすく、加えて線状降水帯が発生する可能性もあるので注意が必要である。

令和5年度 第1回神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 出席者名簿

【協議会委員】

(順不同、敬称略)

区 分	委員氏名	主な役職	代理人所属・氏名
学識経験者	沖村 孝	神戸大学名誉教授	
国	佐伯 亮介	神戸地方気象台長	
兵庫県	大久保 和代	神戸県民センター長	
神戸市	久元 喜造	神戸市長	建設局部長(防災担当) 瀬川 典康
県民	木下 直俊	神戸市東灘区 福池小学校区防災福祉コミュニティ会長	
	浪平 博司	神戸市灘区 灘区稗原町二・三・四丁目自治会会長ほか	
	松田 久美子	神戸市中央区 東川崎ふれあいのまちづくり協議会委員長	
	小巻 建一	神戸市兵庫区 菊水防災福祉コミュニティ委員長	
	伊藤 鉄夫	神戸市長田区 真野地区防災福祉コミュニティ本部長	
	本田 智美	神戸市須磨区 須磨区自治会連合会会長	
	濱田 純一	神戸市垂水区 垂水区自治会連絡協議会会長	

議事録確定署名人

会長 神戸大学 名誉教授

沖村 孝

神戸県民センター長

大久保 和代